

普及活動現地情報

「農業現場では、今」

平成 30 年 12 月号



【那賀振興局】12/20 新規就農者向け経営研修会を開催

和歌山県農林水産部経営支援課
(農業革新支援センター)

はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。

和歌山県 経営支援課 普及



< 目 次 >

頁数

I 海草振興局	1 - 2
1. 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地への取り組み】 ～第2回ワーキングチーム会議（労働力確保に関する意見交換）を開催～	
2. 新規就農者研修会(野菜コース)を開催	
II 那賀振興局	3 - 4
1. 岩出市立岩出中学校で郷土食体験を開催	
2. 新規就農者向け経営研修会を開催	
3. 那賀地方農業士会女性部会カトレア会研修会開催	
III 伊都振興局	5 - 7
1. 農業機械研修会を開催	
2. くにぎ広場・農産物直売交流施設組合がはたごんぼ収穫祭を開催	
3. 農業技術講習会果樹専門コース開催	
IV 有田振興局	8
1. クリスマスみかんツリーで消費拡大PR！	
V 日高振興局	9 - 10
1. みなべ梅郷クラブが県外研修会を実施	
2. みなべ町農業士会が2年ぶりに「明日の農業を語る会」を開催	

Ⅵ 西牟婁振興局

11-12

1. イチゴ「まりひめ」の高品質生産を目指して
～栽培圃場現地巡回及び意見交換会を実施～
2. 先輩農家に学ぼう！（アグリビギナー等技術経営研修事業）を開催

Ⅶ 東牟婁振興局

13-17

1. 重点プロジェクト【新規就農者の育成を核としたイチゴの産地育成】
～那智勝浦町苺生産組合が視察研修を実施～
2. 重点プロジェクト【新規就農者の育成を核としたイチゴの産地育成】
～イチゴ定植圃現地研修（第5回セミナー）を実施～
3. 東牟婁地方農業士会連絡協議会、東牟婁地方農業青少年クラブ連絡協議会が
農産物即売会を開催
4. 三津ノ地域活性化協議会が先進地研修を実施
5. 環境保全型農業栽培技術現地研修会（オープンセミナー in 東牟婁）を開催
6. 那智勝浦町苺生産組合が出荷検討会（めならし会）を実施

I 海草振興局

1. 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地への取り組み】

～第2回ワーキングチーム会議（労働力確保に関する意見交換）を開催～

12月17日、「海南・下津農業の将来を考える取組ワーキングチーム（以下WT）」では、第2回WT会議を開催した。

今回は労働力確保をテーマとして開催し、下津町内で援農プロジェクトを展開している大谷幸司氏をゲストに迎えて実施した。

会議では、今までに出された意見を分類し、導き出した将来ビジョンの方向性について確認するとともに、WTで10月に実施した先進地事例調査などから活用できる内容や取り組み方策について事務局より紹介した。

続いて、大谷氏から、援農プロジェクトの取組経緯や今年度の状況等について説明していただいた。大谷氏によると、昨年度は前年の2倍近くの援農アルバイトを受け入れるにあたり、宿泊場所なども増やしつつ対応しているが、それでも需要に応えきれずお断りしている状況で援農アルバイト希望者は多いとのこと。この他、援農プロジェクトの参加者は地域の何気ない資源に魅力を感じているというリピーターの声や、大切にすべき関係性などを紹介していただいた。

また、運営上工夫している点や苦労している点などについても話をいただき、関係機関と協力することで解決できることがないかなど意見交換を行った。

今後、援農アルバイト等の受入を拡大するには、宿泊場所の問題や受入に関する諸課題を解決する必要があるため、地域内の施設や空き家の活用についての検討のほか、WTメンバーが実施できる内容や役割分担について話し合いや情報交換を継続していくこととなった。

農業水産振興課では、年度内に農業士会や関係者と検討を重ね、目指すべき将来ビジョンの作成や取組の持続的実施に向けた体制づくりにつなげたいと考えている。

（WT構成メンバー：農業者団体、JAながみね、海南市産業振興課、海草振興局農業水産振興課）



WT会議で大谷氏を交えて意見交換

2. 新規就農者研修会(野菜コース)を開催

農業水産振興課は、就農1年目～5年目までの農業者を主な対象とした新規就農者研修会を12月3日に開催した。この研修会は、新規就農者が地域の先輩農業者や他地域農業者と交流し、農業技術や経営、販売面での先進的な取り組みや特徴的農業経営を学び、人脈を構築することにより、今後の農業経営を考える上での知見を深めることを目的として開催している。

今回は、第1部「施設・砂地での野菜づくり」、第2部「水田裏作地での野菜づくり」という2部構成で実施した。和歌山市から5名の参加があり、第1部では貴志年伸氏（地域農業士）の園地にて、第2部では竹田和正氏（指導農業士）の園地にて現地研修を行った。

貴志氏は和歌山市内原地区の砂地でシュンギクとダイコンを作付しており、植え付ける軟弱野菜の種類は九州の動向を見て決めていることなどを教えていただいた。イチゴを栽培している新規就農者からは、ハウスの被覆資材は何がいいか等の質問があった。

竹田氏は水田裏作作物としてハクサイ、キャベツ、ロメインレタスを栽培しており、ロメインレタスについては契約栽培を行っていることなどを教えていただいた。ハクサイを栽培している新規就農者は、アブラムシの防除など積極的に質問していた。

当課では、来年度も新規就農者が興味を持つ内容で研修会を実施したいと考えている。



第1部 貴志氏のハウス



第2部 竹田氏の圃場

Ⅱ 那賀振興局

1. 岩出市立岩出中学校で郷土食体験を開催

農業水産振興課では、12月12日と15日、岩出中学校2年生8クラス255名を対象に、郷土食料理体験を実施した。

この活動は、子供達が地元農産物と地域に伝わる食文化についての理解を深めることを目的として行っており、「お雑煮」と岩出市特産のなばなを使った「ごまあえ」の調理を実習した。

当日は、森普及指導員と岩出市生活研究グループ協議会（会長：福田清子）の会員が講師となり、福田会長ほか会員34名（2日間延べ）が指導をおこなった。材料の野菜（青味大根、金時人参、里芋、なばな）および餅、みそはグループ員が作ったものを活用した。

福田会長からは、なばなは岩出市の特産で栄養価が高くかぜの予防に効果があるとの紹介があった。実習を行った生徒からは、「手作りのおもちやみそはおいしかった。家でも雑煮を作りたい」、「なばなは思っていたよりも食べやすく美味しかった」等との感想がでて、全員残さず完食した。年明けには岩出第2中学校でも開催予定である。

当課では、今後も生活研究グループや農家と連携しながら、食育活動を推進していく。



岩出市特産のなばなについて説明



調理実習



生徒達が調理したお雑煮とナバナのごま和え

2. 新規就農者向け経営研修会を開催

12月20日に新規就農者を対象に経営研修会を開催し、18名が参加した。

講師には税理士の風神正典氏を招き、確定申告のための事例別タックスプラン(節税)の留意点、変動損益計算書の理解と事例研究という内容で研修会が進められた。

白色申告、青色申告の違いや交際費、事業費の考え方などについて説明を受けた後、申告書から読み取る損益分岐点の作成、変動費と固定費の簡易な算出など経営用語などに馴染みの無い人でも自己診断ができるような研修内容となり、受講者から質問が相次いだ。

事例紹介による具体的な指標を提示した事で、経営診断を身近なものに感じる事ができたようで、次年度以降の研修ではモモやイチゴなどの事例を活用した経営研修会を実施したい。



経営研修会

3. 那賀地方農業士会女性部会カトレア会研修会開催

那賀地方農業士会女性部会カトレア会(会長:長谷川美枝、会員:14名)では、12月26日、地域農業士のダイマル農園 台丸谷久実氏による多肉植物の寄せ植え体験を行った。(参加者11名)

多くの種類多肉植物の中から、会員それぞれが選びお正月らしい寄せ植えが完成した。

研修会のあとは今後の活動について話し合いが行われ、普段なかなか顔を合わす機会がない会員同士の親睦を図ることが出来た。



台丸谷氏による寄せ植え講習



完成した多肉植物の寄せ植え

Ⅲ 伊都振興局

1. 農業機械研修会を開催

農業水産振興課では、農業機械メーカー4社の協力のもと農業者の農業機械に関する知識の向上と相互の交流を図るため、12月14日、農業機械研修会を伊都振興局総合庁舎において開催した。研修会には新規就農者を中心に22名の農業者が参加し、農作業事故防止対策や農機具のメンテナンス等の説明を熱心に受講していた。

最初に、事故の発生状況や農機具ごとの事故の特徴と事故防止の要点や危険予測の方法について近畿東海クボタ株式会社の担当者から資料やビデオを用いて研修を受けた。その後、トラクター、自走式草刈機、動力噴霧器、チェーンソーについて実物を見ながらメンテナンス方法や安全な作業を行うための操作方法について説明を受け、参加者それぞれに関心のある農機具について質問や相談を行った。

参加者からは、「実物を見せてもらいながらの説明が興味深かった」、「日頃のケアの大切さがよく分かった」、「メーカーに疑問を直接質問できたことがよかった」などの声があった。

当課では、今後とも農業者特に新規就農者の技術向上のための研修を行うとともに、農業者同士の交流を深めるための支援を行っていく。



伊都総合庁舎での講習



実際の機械での研修

2. くにぎ広場・農産物直売交流施設組合がはたごんぼ収穫祭を開催

くにぎ広場・農産物直売交流施設組合（組合長：岡本進 以下くにぎ広場）が12月15日、はたごんぼ収穫祭を開催した。

本収穫祭は、企業のふるさとの取組によるもので井関関西(株)並びに井関農機(株)、橋本市、県の関係者が参加した。

開会セレモニーの後、ごぼう堀取り機による収穫作業が行われた。

ごぼう堀取り機は土を柔らかくほぐして、ごぼうを掘りやすくするものであるが、当地域の粘土質の土壌では、土が十分にはほぐれないため、堀取り機を使用して多少は掘りやすくなったごぼうを参加者がスコップで掘って収穫した。

昼食には、くにぎ広場加工部が作ったごんぼ寿司や煮物などはたごんぼ料理がふるまわれた。

昼食後、来年のはたごんぼ栽培について、くにぎ広場、(株)井関関西、井関農機(株)、農業水産振興課で打ち合わせをおこなった。次年度も今年度と同規模で栽培がされる予定である。

当課は、今後のはたごんぼによる地域振興を支援していく。



開会セレモニー



ごぼう堀取り機による収穫



参加者全員で記念撮影



ごんぼ寿司

3. 農業技術講習会果樹専門コース開催

農業水産振興課では、農業技術講習会果樹専門コースの受講生の技術向上を図るため、12月18日、九度山町内の富有柿園（園主：志野哲史）においてせんだ講習会を開催した。講習会には新規就農者や飛び入り参加の農業者を含む20名が出席した。

小松普及指導員から富有柿の樹姿や結果母枝の特徴、せんだの手順を説明した後、実際に不要な枝や短い枝の切除、側枝更新による枝の若返り、「刀根早生」など渋柿との相違点、翌年に花が確実に着生する枝を残すなど樹形にあまりこだわらずに収量をとること等を説明しながら実演した。なお、説明にあたって小松普及指導員から「皆さんならこの側枝をどのように切りますか？」と疑問を投げかけ受講生に考えてもらうよう工夫しながら説明を行った。

参加者からは「立ち枝の処理の方法が難しい」、「細い枝でもいい果実はできるのか」など様々に質問が出され、熱心に説明を聞いていた。

次回（本年度最終）の果樹専門コースは2月上旬に接ぎ木研修を予定している。

当課では、専門コースを通じてより実践的な研修となるよう内容の充実を図っていく。



せんだ講習

IV 有田振興局

1. クリスマスマかんツリーで消費拡大PR！

有田地域農業振興協議会（市町、農協、共済、振興局農業水産振興課で構成された団体 会長：西岡利記広川町長）は、有田みかんの消費拡大を目的に、みかんの生果を飾り付けたクリスマスツリー（以下、ツリー）の配布を平成27年度より行っている。今年も、12月3日～7日にかけて管内のJA関係、郵便局、金融機関、行政機関、直売所、JR各駅など約80か所に、小さなツリーを配布した。

この取組のきっかけとなったクリスマスオレンジについての紹介と、ツリーの作り方を説明したPOPをツリーに付けて、「クリスマスにもみかんを！」とPRした。

また、今年度は4年目の取組となることから、配布時にこの取組の評価について、アンケートをお願いした。集計結果は今後の配布活動に活用していく予定である。

また、グランフロント大阪でのワークショップや観光イベントでみかんツリーを紹介した。今後も関係機関と連携して、有田みかんの消費拡大に取り組んでいく。



ツリー配布



ツリー作り体験

クリスマス みかんツリー の作り方

市販のクリスマスツリーにモールでみかんを飾るだけ。とっても簡単です！



モールの他、毛糸などでもOK！
Sサイズ以下の、小さいみかんの方が飾りやすいです。

百均のツリーでもかわいくできます。
もちろん大きなツリーでもOK！

（例）
ツリー108円＋モール108円＋みかん（4個）200円＝420円程度で作れます！！

飾っているうちにみかんは少しずつ傷んでいきます。どんどん食べて、新しいみかんと交換してね。

オリジナルのクリスマスみかんツリーを楽しんで下さい！！

有田地域農業振興協議会（事務局：和歌山県有田振興局農業水産振興課）

ツリーに付けたPOP

V 日高振興局

1. みなべ梅郷クラブが県外研修会を実施

みなべ梅郷クラブ(会長：山本秀平、会員：13名)では、日高地方4Hクラブの活動に積極的に参加するとともに、地域課題の解決や各自の農業経営の改善のためのプロジェクト活動や独自の県外研修を実施している。

今年度は、肥料メーカーの製造工程や果樹の大規模農業法人の優良事例について学習するため、12月10日～11日の2日間、片倉コープアグリ株式会社千葉工場及び山梨県の有限会社I&I フルーツグローブズにおける県外研修会を、会員7名が参加して実施した。

片倉コープアグリ(株)では、和歌山地区担当の大内正志販売課長から肥効調節型肥料の種類や肥効特性、肥料原料確保の情勢や、梅や豆の新肥料の開発経過などについて説明を受けた後、製造工程や品質管理について研修を受けた。また、(有)I&I フルーツグローブズでは、飯野公一代表取締役から、就農当初から現在までの取り組みや現在の経営概要、後継者育成や今後の展望についてお話しいただくとともに、所管する中北地域普及センターの山下路子技師から、地域の担い手の状況や、同法人が山梨県独自の制度である「アグリマイスター」に認定され、新規就農者育成に多大な貢献を果たして旨の説明を受けた。会員からは、「法人化のきっかけは?」、「優良農地の確保は?」、「大面積を管理するための工夫は?」といった質問が次々と出され、自身の経営について考えるいい機会となった。

農業水産振興課では、今後とも同クラブの活動支援を通じて、担い手育成と農業経営の改善を推進していく。



肥料メーカーで肥効調節型肥料を学ぶ



肥料の製造工程を研修



(有)フルーツグローブズの飯野代表と山下普及指導員から大規模果樹経営について聴取



2. みなべ町農業士会が2年ぶりに「明日の農業を語る会」を開催

みなべ農業士会(会長：中井昭、会員：47名)では、県や日高地方の農業士会活動に加えて、町農業士会独自の事業として、試験場研修や青年農業士研修などを計画・実施している。今年度は「明日の農業を語る会」として、町長との意見交換会を計画し、12月17日、小谷芳正町長及びうめ課、産業課の副課長を迎えて、会員18名の参加のもと、2年ぶりに開催した。

はじめに、小谷町長から労働力確保や鳥獣害、新規就農者などについて全国的な状況を踏まえ、町農政に関する講話があった。続いて、農業水産振興課からみなべ町の現状を、農家戸数、耕地面積、農業産出額、新規就農者数、農作物鳥獣被害額の推移、耕作放棄地の推移から、みなべ町、和歌山県、全国の数値と比較して、その特徴を説明した。

特に、労働力確保のための宿泊施設の問題や鳥獣害対策、ウメ輪紋ウイルスやクビアカツヤカミキリの状況などについて会員の関心が高く、その後の意見交換では活発な質疑応答が行われた。

当課では、今後とも農業士会やみなべ町、JAや他の農業団体とも連携して、これら課題への対応に取り組んでいく。



中井会長挨拶



小谷町長講話

VI 西牟婁振興局

1. イチゴ「まりひめ」の高品質生産を目指して

～栽培圃場現地巡回及び意見交換会を実施～

稲成いちご研究会（会長：宮本誠士）は、イチゴ「まりひめ」の栽培技術向上による高品質生産を図るため、12月12日、研究会会員7名、JA紀南職員2名、普及指導員2名により、各会員の圃場巡回や意見交換会を行った。

JA紀南職員からは、パック詰め方法や規格等について再度意識統一を図るため、出荷要領等の説明があった。同時に、ブランド力向上を図るため、大玉果にこだわった「DX用パック」の出荷時期等についても意見交換を行った。

谷普及指導員からは、イチゴのハダニ防除対策として、天敵の利用について説明し、現地実証圃の設置について協議した。

会員からは今のところ、ハダニ防除について、薬剤防除で対応出来ているという意見は多かったが、効果のある防除薬剤の種類が少なく、薬剤抵抗性の発達が早いハダニの防除対策として、天敵を利用してみたいとの意見もあった。

その後、会員の圃場を巡回し、定植後の生育状況（病虫害の発生等）を確認した。

今年は炭そ病が発生している圃場が多く、村畑普及指導員から炭そ病対策の他、うどんこ病やアザミウマ類の対策についても説明した。

今回の現地巡回や意見交換会により、会員の情報共有や高品質生産への意識付けが図られた。



パック詰めや規格について検討



圃場巡回での意見交換

2. 先輩農家に学ぼう！（アグリビギナー等技術経営研修事業）を開催

営農課題の解決や農業経営に関する資質向上を目的として、新規就農者や若手農業者を対象に、「先輩農家に学ぼう！」と題し、先輩農家である3名の農業者より自身の農業経営について紹介いただいた。

第1弾は12月4日、白浜町富田地区で野菜の多品目経営を行っている濱野孝人氏より、これまでの取組を含め、ご自身の経営内容について紹介いただき、現在の作付体系、肥料のまき方、倉庫等資材管理、畝づくりの大切さについてお話しいただいた。



濱野氏の経営内容紹介



畝たての講習

第2弾は12月20日、果樹と水稲、花（トルコギキョウ）の複合経営を行っている上富田町岡の岡本和也氏と、果樹と水稲、露地野菜による複合経営を行っている田辺市下万呂の鈴木寿志氏（地域農業士）からそれぞれご自身の経営内容とともに複合経営にした経緯、苦労した点、経営管理のポイント、今後の展望や課題についてお話しいただいた。

この2回の研修を通じ、参加者からは、「栽培品目の選定の面で役にたった」、「畝たての重要性を再認識した」、「出荷先の検討が大事」、「『できた物を売る』から『売れる物を作る』に認識を改めた」、「自身の経営が梅のみなので複合経営にチャレンジしてみたい」などの感想が寄せられた。

この研修会をきっかけに、参加した新規就農者と先輩農家との交流が図られており、農業水産振興課では、今後もこのような研修の機会を設けるなど、若手農業者を支援していきたい。



岡本氏の経営内容紹介



鈴木氏の経営内容紹介

Ⅶ 東牟婁振興局

1. 重点プロジェクト【新規就農者の育成を核としたイチゴの産地育成】 ～那智勝浦町苺生産組合が視察研修を実施～

12月5日、那智勝浦町苺生産組合(会長:栗野稔近)は、視察研修を実施し、紀の川市打田の現地圃場と県農業試験場を視察した。当日は生産者11名の他、JAみくまの及び農業水産振興課職員の計15名が参加した。

現地は紀の川市打田の奥佳樹氏の圃場で、那賀振興局の奥野普及指導員から平成28年度と29年度に同圃場で行ったハダニ類と天敵の密度調査について説明があった。続いて、園主の奥氏から経営概要や栽培概要について説明があり、栽培方法について意見交換や質疑応答が行われた。

農業試験場では、県オリジナル品種の「まりひめ」と「紀の香」の栽培圃場とハダニ天敵の試験圃場を見学し、東主任研究員から定植後の芽なし株発生時の対応や厳寒期の栽培管理について、井口主任研究員から天敵導入後の栽培管理について説明があった。組合員からは、灌水方法や農薬散布について質問があり、有意義な研修となった。

当課では、今後も会員らの栽培向上の参考となる研修会を開催していく。



現地圃場



試験場圃場

2. 重点プロジェクト【新規就農者の育成を核としたイチゴの産地育成】 ～イチゴ定植圃現地研修（第5回セミナー）を実施～

12月11日、那智勝浦町苺生産組合(会長:栗野稔近)は、イチゴ「まりひめ」の栽培技術向上を図るため、定植圃現地研修（第5回イチゴセミナー）を実施した。当日は、生産者13名の他、JAみくまの及び農業水産振興課職員の計17名が参加し、各生産者の圃場巡回や栽培講習会を行った。

圃場巡回では、生育状況（病害虫の発生など）の確認を行った。9月下旬の台風と大雨の影響により定植が遅れたため、全般的生育に遅れがみられた。また、炭そ病の発生も例年よ

り多い傾向にあった。

圃場巡回後は、JAみくまの太田営農センターにて栽培講習会を行い、当課職員の堺副主査から天敵導入後の栽培管理（使用可能農薬、天敵の追加放飼時期、薬剤防除への切り替え時期）について説明を行った。

当課では、関係機関と連携しながら適正防除を進めていく。



圃場巡回



栽培講習会

3. 東牟婁地方農業士会連絡協議会、東牟婁地方農業青少年クラブ連絡協議会が農産物即売会を開催

12月1日、東牟婁地方農業士会連絡協議会（会長：杉浦仁 以下農業士会）と東牟婁農業青少年クラブ連絡協議会（会長：石田大士 以下4Hクラブ）は、那智勝浦町体育文化館で行われた那智勝浦町農産物品評会の開催にあわせて、農産物即売会を開催した。

例年、4Hクラブ員がそれぞれ生産した農産物や加工品を持ち寄り、農産物即売会を行ってきたが、昨年からは農業士会も販売ブースを設け、即売会を開催している。

今年は台風により農作物が甚大な被害を受け、例年より品目は少なくなったものの、両会員は日頃の管理により多くの農産物を出品することができた。即売会のテントには、開店前から多くの人々が訪れ、売れ行きは好調だった。毎年訪れているという固定客も見られ、地域の方々との交流の場となっている。



農業士会即売ブース



4Hクラブ即売ブース

4. 三津ノ地域活性化協議会が先進地研修を実施

12月2日～3日、三津ノ地域活性化協議会（会長：下阪殖保）は、6次産業化や後継者対策の先進的な取組事例を調査するために、滋賀県東近江市にある「有限会社 池田牧場」、「NPO法人 愛のまちエコ倶楽部」と京都府船井郡京丹波町の獣害防護柵設置現地圃場で先進地研修を実施した。当日は、三津ノ地域活性化協議会推進委員や関係者15名が参加した。

（有）池田牧場の池田喜久子氏は、元は生乳生産農家であったが、生産調整で廃棄する生乳を有効活用するため、個人で資金を借り入れジェラート加工機械をいち早く導入するとともに、近年は有害駆除で処分されるシカを活用したレストランを経営するなど、経営改善に意欲的に取り組んでいる。

また、近在する公共キャンプ場の指定管理者となり、その後、同施設の払い下げを受けて運営を継続しており、酪農、森林体験を通じたエコツーリズムも進めている。

池田氏からは、「完全に商売屋になった訳ではなく、常に農業者としてやっていい事と悪い事を考えている」、「条件等で補助金は受けられなかったが、それにより迅速に行動でき、経営への甘えがでなかった」等の話を伺った。

次の研修先であるNPO法人 愛のまちエコ倶楽部では、事務局長の増田隆氏より、新規就農支援対策、法人の活動と地域活性化を目指した農業体験、里山保全活動について話を伺った。

愛のまちエコ倶楽部は、東近江市の資源循環型の地域づくりを進める拠点施設「東近江市あいとうエコプラザ菜の花館」の指定管理者となっており、地元の菜の花から得られる食用油の利用や家庭から出される廃油の回収・利活用など資源循環システムとして実施している「菜の花エコプロジェクト」事業が主な収入源で、平成22年から新規就農支援対策にも取り組み始めている。

この取り組みは、県普及課、市、JA、共済、生産部会と連携して実施されており、NPOは就農希望を受け付ける窓口のほか、受入農家と就農希望者の農地貸借契約を取り持っている。現在、就農された方は5名いるが相談はもっと多いとのことであった。

京丹波町の獣害防護柵設置現地圃場では、鎌谷下区農家組合の森田一三組合長や関係者より農林水産省の中山間地域所得向上支援事業（H28）を利用した、地域での獣害防除の取り組みについて説明を受けた。

当課では、このような先進地の事例を参考に、三津ノ地域活性化協議会の自発的な取り組みを支援していく。



(有) 池田牧場での研修



NPO法人愛のまちエコ倶楽部での研修

5. 環境保全型農業栽培技術現地研修会（オープンセミナー in 東牟婁）を開催

12月5日、農業水産振興課は、串本町重畳山の竹田敏明氏のポンカン園地において、環境保全型農業栽培技術現地研修会を開催した。

当園地は、県が環境保全型農業の推進を目的に、「エコ農業実証モデル園」として設定している。研修会には管内ポンカン生産者や関係者ら計16名が参加した。

竹田氏はポンカン栽培において、平成28年度より和歌山県特別栽培農産物認証を取得している。

特裁認証ではあるが、平成22年度から節減対象農薬を一切使用せず、また、平成30年度からは肥料もすべて有機由来のものを使用し、有機認証に準じた環境保全型農業に取り組んでいる。

土づくりにおいては、ポンカンの剪定枝チップやジュース加工の際にでるポンカン絞りかす、もみ殻、イセエビ殻等を原料とした自家製堆肥を使用しており、また、月1回園地全体の草刈りを行うことで除草剤を使用していない。

参加者からは土づくりや栽培管理に関して、また、販売方法に至るまで多くの質問があり、積極的に意見交換がなされた。



エコモデル園地



現地研修会

6. 那智勝浦町苺生産組合が出荷検討会（めならし会）を実施

12月21日、那智勝浦町苺生産組合（会長：栗野稔近）は、出荷基準の統一を図るため、JAみくまの太田営農センターにおいてイチゴ出荷検討会（めならし会）を実施した。当日は、生産者12名の他、市場関係者、JAみくまの及び農業水産振興課職員の計20名が参加した。

栗野会長から「消費者の皆さんの声を励みに、より高品質な「まりひめ」の生産を目指していきたい」と挨拶があった。その後、出荷されたイチゴの色づき・大きさなど荷姿を確認し、参加者で出荷基準について統一を行った。

当課では、関係機関と連携しながら、適正出荷について指導を行っていく。



出荷検討会

普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4931
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489